

神奈川県内のソフトバレーボール競技規則及び申し合わせ事項は以下のように取り扱う

< I > 記録員及び記録用紙

- 1) ゲーム・キャプテンは、副審にサーブ順を確認する事が許されている。当然、副審・記録は正規のサーブ順を教え、間違っただけの番号を教える必要はない。但し、思い違いで記録員等がサーブ順を間違っただけの時でも、間違っただけのサーブ順でサーブを打った時は、チーム責任として相手チームにサービス権と1点を与える。(ルールの原則)

<補足> 過去に記録記入法をよく理解していない記録員が、間違っただけのサーブ順を何回も教えたケースがあり、この場合は大会審判長の判断で決着したが、このようなことはあってはならない。記録記入法をよく理解してから記録員となること。(自信がない場合は代行を充てる)

- 2) 記録員はサーバーの誤りに気がついても、サーバーがサービスを打つまでは指摘してはならない。サービス順に誤り(ロング・サーブ)があれば、サービスが打たれた瞬間、記録員は直ちに副審に合図を送る。
- 3) 得点転記ミスをなくすために、記録用紙の両チーム最終得点を○で囲むことが望ましい。
- 4) チームから提出されたラインアップシートは、変更することはできない。もし、ラインアップシート記載と異なる競技者が入っていた場合は、監督かゲームキャプテンに聞き、シート通りの競技者と交代させる。なお、チームがコート内の競技者を残したい場合は、ラインアップシートと記録用紙を訂正し、これを認める。1回の競技者交代にはしない。また、ポジション変更、ローテーションの変更は認められない。
- 5) 記録用紙のエントリー表には、選手氏名を省いてユニフォーム番号を記入すること。但し上位大会への予選会には、事前にエントリー表に有効にMRS登録された監督、選手全員の氏名の提出が必要。

< II > 副審

- 1) ソフトバレー初心者チームに対しては、副審が声を出して、スターティングラインアップの照合をすることが望ましい。
- 2) 記録からの合図で、サーブ順の間違いがあった場合、副審は相手方チームにサービス権と1点を与えた後、間違っただけのチームのポジションを正しいものに戻す。間違いに気づかず、または記録員が間違っているのではないかと確認している間に、間違っただけのサーバーからのラリーが終了した場合でも、ラリーで得た得点は取り消され、サーブ順の間違いで反則となる。連続して得点が入った場合は、間違っただけのサーバーがサービスを打って得たそのチームの点数のみを取り消す。相手側のチームの得点は有効とされ取り消されない。
- 3) 公式ウォーミングアップは、競技時間の短縮を考慮して両チーム合同3分間とする。